



第231號 (第 20 卷)

(昭和15年) 7 月 號

卷頭

宇宙を觀る、人生を觀る

隨筆

山 本 一 清

歐洲の戰爭は、波獨英佛から始まつて、デンマルク、ノルエ1、オランダ、ベルギーの各國を席卷し、最近には、とうとうイタリアも參戰して了つた。もはや、こうなると、形式上、戰禍に見舞はれてゐないのは、スエーデン、スウェーデン、スペイン及びバルカン諸國だけぐらゐで、實に驚くべき状態である。只、アメリカだけは當分こうした戰雲を避けて、平和な生活をしてゐる。我が國も東亞大陸が安定しないかぎり、勿論、非常時體制ではあるが、しかし、幸ひ、國內は平穩であるから、學術の研究も自由に行はれてゐる。

アメリカの天文學會 (American Astronomical Society) が来る九月に、Wellesley 女子大學で開かれるといふ通知が、去る六月10日に到着した。恐らく之れは五月中旬に發送された通知であらうし、此の通知の原案が決定したのは四月末又は五月初であらう。學會の例會プログラムが(下記の如く詳細に)半年も前に決定したのは、アメリカ式の早や手まはしとも考へられるが、しかし、大學あたりは夏期休暇があつて、通知が後れては、届きかねる心配もあるのであらう。それにしても、例年の通知よりもよほど早い。通知状にも斷つてある通り、多分之れは、世話すきな Duncan, Maxwell 兩氏が、サツサと、やりおほせた仕事であらう。肝腎の Secretary たる McLaughlin 氏は“私は只、署名をしたただけだ”と言つてゐる。

ついでに、歐米人のやる學會なるものが如何なる形式で行はれるかといふこと(學者の生活の一断面)を紹介したい。(わが國の學會には未だ々々アカマケのしない封建氣風や、東洋流のものがある。)——アメリカ天文學會は専門天文學者の會で、現時は前リク天文臺長 R. G. Aitken 博士が會長であり、シカゴ博物館の Fox, キルソン山天文臺の Hubble 兩博士が副會長、ミシガン大學のマクラフリン博士が幹事である。今回は前記エレズリ大學天文臺長ドンカン博士の招待により、来る九月11日から同14日まで、同大學で開かれることになつたものである。會合の次第は

**九月11日(水曜)**

- 午後 参加會員の登録，宿所の決定，大學構内グラウンド及建築の參觀。  
 〃 4:00 ドンカン臺長の招待により，大學天文臺で御茶の會。  
 〃 8:00 Green 館にて評議員會；大學天文臺公開。

**九月12日(木曜)**

- 午前 9:00 開會式：大學總長 McAfee 博士の歡迎辭；エイトケン會長の答辭；  
 其の後，研究論文發表會。  
 午後12:00 一同，記念寫眞撮影。  
 2:00 研究論文發表會。  
 夕刻 催しもの。

**九月13日(金曜)**

- 午前 8:30 Green 館にて評議員會。  
 9:00 事務會：役員改選，エイトケン會長退職演説；其後，研究論文發表會。  
 午後 2:00 研究論文發表會。  
 5:00 音樂會。  
 7:00 記念晚餐會。

**九月14日(土曜)**

- 午前 Harvard 學院天文臺の Oak Ridge 觀測所(エルズリより約30哩)に  
 遠足，設備の參觀，其後，附近の某私立博物館參觀。  
 午後12:30 オーク・リヂ村でピクニック(ハーバード天文臺の厚意)

“エルズリ”は米國第一の有名な女子大學で，自分は英子と共に1924年の春2回ばかり訪ねたこともあり，ドンカン教授は其の當時からこの天文臺の臺長であつた。ボストン市から西南へ15哩，“ボストン・オルバニ鐵道”の便宜があり，エルズリ驛から大學までは約半哩の道である。こんどの天文學會の本部は，大學の最新最美の Severance Hall といふ寄宿舎で，其の一階には夫人同伴者，二階は單獨婦人，三階は單獨男子の會員の宿泊所にあてられ，宿泊食事全部で各人10弗となつてゐる。市内には又，大學から半哩で Wellesley Inn といふ旅館(62室，一泊2½弗，食事は別)があるし，ボストン市の Kenmore ホテルも亦會員のために特別割引(單獨一泊3½弗，二人5弗)をする。尙，セヴランス館で食事のみ採る人は，ランチ60仙，普通デンナ85仙，晚餐會費1.25弗。其の他，市内各所や，學内の“The Well”と呼ぶ所でも食事のサービスはある。研究論文發表會は Pendleton Hall と呼ぶ學内最新の講堂で開かれ，評議員會は Green Hall 内の理事室が用ゐられる。發表すべき論文は七月25日までに幹事の手に届けられるべきで，發表時間は10分以内，2論文以上を提出する場合には優先順を附すること。又，論文抄略を作成し置くこと。各天文臺の毎年報告文は昨年七月1日以後の一ケ年を報告することとし，會の Publication 第10巻第2號に載せるため，會合の終了後一週間以内に幹事に提出すること。其の他いろいろが書かれてある。

エルズリは米國マサチュセツ州で、米國の文化圏内にあり、過去二三年來、戰亂を避けて目下歐洲より渡來してゐる天文學者も多いので、此の會合は恐らく賑はうことであらう。

○關西で、觀測など熱心にやつてゐた若い一會員が、近頃東京に引き移つたところ、或る方面から本協會の悪口を聞かされ、大に憤慨してゐるといふ通知があつた。由來、東京は(殊に學者仲間には)口の悪いのが澤山あるのであるし、東京天文臺員中には、先輩のなりして、後輩の京都や倉敷の天文臺(及び天文臺員)を指導する代りに、悪口雜言を常として、學界の進歩を妨げ、學術の品位を傷け、他人の研究を嫉妬する惡徳天文家が少なくないのであつて、十數年來、この種の腐り漢を、自分等は知つてゐるが、自分等は決して彼れ等の眞似をせず、悪口に報ゐるに悪口を以てしない方針を堅持してゐる始末である。しかし、純眞なる本會員中には、此の種の惡徳學者に始めて接して、驚かれる人もあらう。崇高なる天文學をやつてゐる人々でも、之れが職業となれば、忽ち墮落して、凡人以下の下劣輩になつて了ふものがあるものである。こんなものを相手としないだけの態度と勇氣とが必要である。

○妻が病氣で、入院中、自分は此頃殆んど京都を離れて、いなか暮らしをしてゐる。お蔭で、いなかの美しい星空に毎夜親しむことが出來て、幸ひである。それにつけても、近代の大都市といふものは、晝となく、夜となく、空の空氣を汚すこと甚だしく、單に之れは天文觀測者たちの觀望を妨げるといふのみに止らず、人の生活の健康性を妨げ、神經を鈍らせる意味に於いて、之れは現代の重大問題である。何とかして、もつと衛生的な環境に、人類は生活出來ないものか?! せめて、ニウヨーク市の如く、烟だけでも完全に放逐する社會を、我が國にも早く作りたいたいものである。(1940-6-12)

#### 題四星會天圖

菟齋隱士

皇曆二千六百春。仰看天上四星親。  
晴宵交歡議何事。似訝人間爭霸頻。

#### 題米子第三十五星團圖

燦彼羣星鏡裏姿。學宮\*西角鑲瑠璃。  
二千六百光程溯。想見神皇肇國時。

\* 學座は双子座です。